

世界の 見方



ミロスラフ・ライチャーク

国連総会議長

国連の創設時、創設者たちは今とは違う世界を思い描いていた。そこでは紛争は戦場ではなく会議室で解決され、戦争は勃発する前に止められた。だが、最近では多くの地域で暴力的で複雑化した紛争が増えている。かつては軍の戦闘に巻き込まれ死亡した民間人が、今や直接の攻撃対象となり、恐怖と絶望から多くの人が住む場所を追われている。国連には平和に対する新たなアプローチが必要だ。

国連は24、25両日にニューヨークで「平和構築と持続的な平和」に関するハイレベル会合を開き、世界の首脳が紛争予防や調停などを重点的に話し合う。ここでいう「平和」とは政権が代わっても消えない、ごく普通の平和のことだ。それを我々は「持続的な平和」と呼び、紛争の解決策を探すより前に優先的に取り組むべき事柄だと考える。

特定の地域では、真の永続

持続的な平和



Sustaining Peace

紛争予防の考え方を中心とする平和構築の考え方の一つ。従来の平和構築の概念が主に紛争後の活動に主眼を置いてきたのに対し、紛争の発生や拡大、継続、再

世界の「平和の仲介者」

的平和は実現不可能との意見もあるが、違う。私は先月、コロンビアで50年に及ぶ武力紛争に巻き込まれた先住民が国連と平和構築に取り組む、村人が自らの未来に期待を膨らませる姿を見て感激した。

ハイレベル会合の議論は大部分がニューヨークで行われるだろうが、議論をリードするのは例えば、かつて内戦に陥ったリベリアで紛争解決や和解促進に尽力する草の根の施設 (Peace Huts) を運営する女性らの活動であるべきだ。無論、皆が「持続的な平和」に賛成しても、実現のための資金がなければ意味がない。紛争で社会が崩壊した際の再建費用は、紛争予防の費用より高つく。一部の国の平和に対する投資であって、増やすことで (紛争を防げれば) 国際社会には膨大な節約となる。

国連創設の目的は平和であることを忘れてはならない。紛争予防における国連の成功例を「例外」ではなく「標準」にしなければならぬ。国連は世界の「平和の仲介者」であるべきなのだ。【訳・念佛明奈】

発を予防する活動や根本原因への対応などが含まれているのが特徴。2016年の国連総会と安全保障理事会で採択された平和構築に関する決議では「目標であると共に、社会共通のビジョンを作るプロセスだ」と定義された。